

2022年度加工用生タケノコ集荷



JA筑紫は、3月下旬から5月上旬まで、筑紫野市JA本店で生タケノコの集荷を行い、総集荷量は約27tとなりました。集荷は管内の中山間地の活性化や竹林整備を目的に取り組み、今年で13年目。

タケノコは、近年「国産」の需要が高まっているため、研修会や座談会などで出荷を組合員に呼び掛けています。

集荷されたタケノコは、大・中・小・外・穂先の規格別に分けられ、加工業者に出荷されます

CE利用計画を協議



JA筑紫は、筑紫野市のJA物流センターで2022年度カントリーエレベーター（CE）運営委員会を開きました。組織代表者や行政関係者、JA役職員など19名が参加し、21年産米麦情勢と結果、22年産麦の生育状況を確認。22年産麦乾燥調製計画や収支計画など全議案を承認しました。5月17日から麦の荷受けを行い、はだか麦「イチバンボン」が荷受け重量約624t、小麦「チクゴイズミ」が約894tとなりました。委員会は、大規模乾燥調製貯蔵施設の適正な管理や運営を目指し、対象作目の利用、運営計画などを協議しています。

第49回JA筑紫女性部通常総会



JA筑紫女性部は5月11日、筑紫野市のJA本店で第49回女性部通常総会を開きました。感染対策を徹底し、3年ぶりに部員も集合して行われ、部員103名が参加しました。総会では、2021年度の活動を報告。今年度の活動計画・予算など全3議案が承認されました。また、総会終了後、那珂川女性部の「ちゃぐりん食堂グループの活動について」のミニ学習会が行われました。

健全な苗を丁寧に配送



JA筑紫は、5月12日から水稻苗の配送を始めました。4月中旬からJA本店グラウンドで育てた苗を、配送員が1箱1箱丁寧にトラックへ積み込みました。初日は管内の中山間地を中心に、苗約1300箱を組合員宅へ配送。

これは、生産者の作業負担軽減を図るため、毎年行っています。今年は約500戸の組合員から「夢つくし」「元気つくし」「ヒノヒカリ」合わせて約5万2000箱の予約注文がありました。6月下旬まで、苗を積んだトラックがグラウンドから出発し、組合員のもとに届けられます。

担当者は「農家に喜ばれるように健全な苗を届けたいです」と話しました。

農作業受託者部会が総会



JA筑紫農作業受託者部会は5月12日、筑紫野市のJA本店で、第40回通常総会を開きました。総会には部会役員やJA職員など10名が参加。2021年度活動報告や、今年度の活動計画・予算など全4議案が承認されました。22年度は、各種研修会の参加や、スマート農業に関する視察研修会等の活動を行う予定です。

筑紫農協青色申告会が通常総会



JA筑紫は、筑紫野市のJA本店で第35回筑紫農協青色申告会通常総会を開きました。会員と来賓、JA役職員など61名が参加。2021年度事業報告や役員改選、22年度事業計画など、全3議案を承認しました。22年度は、研修会や相談会などを通じた税務・会計知識の習得による適正申告に取り組み、インボイス制度など複雑化する税制に的確に対応することを目指します。

JA筑紫肥育牛部会が総会



JA筑紫肥育牛部会は5月18日、第49回JA筑紫肥育牛部会通常総会を開きました。部会員と関係機関、JA役職員など12名が参加。

総会では、2021年度の活動報告や、22年度の活動計画など全3議案が承認されました。21年度も、新型コロナウイルスの影響により販売促進活動等が実施できませんでしたが、除角・削蹄などの徹底した飼養管理を行い、高品質な牛肉を安定して生産できる環境づくりに取り組みました。上物率やロース芯面積、肉質等級といった出荷牛の格付成績は、昨年を上回り、平均BMSは9番以上の結果となりました。22年度は、引き続き出荷牛の肉質の向上・安定及び枝肉重量の増加を目指します。また、県の銘柄牛としての認知度向上や消費拡大のため、県や関係機関と協力し、積極的な「博多和牛」のPR活動に取り組みます。

JA筑紫アスパラガス部会が総会



JA筑紫アスパラガス部会は、第22回JA筑紫アスパラガス部会通常総会を行いました。部会員、来賓、JA職員など18名が参加。2021年度の実績報告や、22年度の活動計画など全4議案が承認されました。22年度も定例会や視察研修、目合わせ会を定期的に行うなど、一丸となって高品質なアスパラガスの生産に取り組むことを再確認。また、新規部会員の加入促進を行い、部会全体のさらなる収量増加を目指します。

はだか麦収穫開始



JA筑紫麦出荷者部会は5月17日から5月下旬まで、はだか麦の収穫を行いました。

JA管内では、43経営体の部会員がはだか麦や小麦約331haを作付しています。播種後から2月末まで気温が低く、降水量が少なく推移したため生育はやや遅れていましたが、3月からは高温で推移したため、急速に生育が進み平年並みまで回復。結果、成熟期は平年よりやや早くなりました。

部会は、はだか麦「イチバンボシ」と小麦「チクゴイズミ」を生産し、播種から刈り取りまでの作業工程の管理を徹底。高品質維持のため、研修会や視察、圃場巡回を重ね、部会の統一を図ります。

「夢つくし」田植え



JA筑紫管内で、水稻の田植えが始まりました。JA管内の水稻作付面積は約664ha。「夢つくし」の栽培は、JA管内で3分の1を占めます。

5月21日には、高田正道さんが那珂川市西畑で約20aの田植えを行いました。高田さんは「本年産も病害虫に注意しながら、美味しい米を作りたいです」と意気込みました。

田植えは6月下旬までJA管内の各地区で行われ、肥培管理と病害虫対策の徹底で品質の向上に取り組みます。

アルミ缶プルタブを資金源に車椅子寄付



ＪＡ筑紫女性部は５月２５日、社会福祉法人大野城市社会福祉協議会に車椅子を贈りました。この取り組みは、社会福祉活動の一環。贈呈品の車椅子は、女性部が中心となって約４年間で集めた「アルミ缶プルタブ」を資金源に購入しました。

贈呈式には、協議会の鳥居正敏会長をはじめＪＡ筑紫女性部の古川徳子本部長、森山由美子支店部長（大野城）が参加。新品の車椅子が手渡されました。

古川本部長は、「皆さんに喜んで利用していただけたら嬉しいです」と笑顔で話しました。

今後も、ＪＡ筑紫女性部は住みよい地域社会づくりを目指していきます。

第１１期ちくし農業塾閉講式



ＪＡ筑紫は５月２７日、筑紫野市のＪＡ本店で第１１期ちくし農業塾閉講式を開きました。修了生１４名は約１１カ月間に及ぶ講義と実習が終わり、今後はＪＡ直売所出荷者や生産部会員の一人として活動する予定です。

式には、ＪＡ役職員ら１４名も参加。修了生には、修了証書と記念品の草削りが手渡されました。塾で講師を務める室園正敏さんは「講義を通して得た知識と経験を生かしながら、野菜の栽培を続けてほしいです」と修了生を激励しました。修了生は、「農業塾で学んだことを食育活動で生かしたい」「直売所に多くの野菜を出荷できるよう頑張りたい」など、一人ひとり今後の決意を強く語りました。

ＪＡは、新規就農者や農業後継者の育成を目的に２０１１年から農業塾を開講。露地野菜や施設園芸の栽培実習と講義を行っています。１期から１０期までの修了生は９３名。そのうち７１名が直売所出荷者や生産部会員として活躍しています

筑紫地区農業振興協議会が総会



筑紫地区農業振興協議会は５月２７日、２０２２年度筑紫地区農業振興協議会総会を開きました。３年ぶりに協議会員が集まって開かれ、行政や福岡普及指導センターの関係者、ＪＡ筑紫職員など２２名が参加しました。

協議会は、筑紫地区の行政と福岡普及指導センター、ＪＡが連携し、地域農業の振興及び農業技術の向上を目指しています。総会では、２０２１年度事業報告や２２年度事業計画など全５議案が承認されました。

JA筑紫太宰府中央支店「地鎮祭」



JA筑紫は5月30日、太宰府市白川で「太宰府中央支店地鎮祭」を行いました。式には、JA理事や役職員、地元評議員、建設会社関係者など約30名が出席し、工事の無事を祈りました。

神事が行われたあと、JA筑紫の白水組合長は「組合員、利用者の皆さまに愛され、親しまれる店舗を運営していきたいです。まずは安全第一に立派な店舗を建てていただきたいです」と挨拶しました。

太宰府中央支店旧店舗は、1967年12月に竣工。今回建て替える新店舗は、約1675㎡の敷地面積で、年内にオープンを予定しています。